



同じむつ市出身、弘前大学医学部でともに学んだ久保田実怜さんと、
「たまたま同じ久保田です」と笑う2人の笑顔に、明るい未来をみる。

私たちむつ市民は たまたまむつに 生まれたわけじゃない



特集

私がむつで働く理由

人口の減少や、若者の地元離れが叫ばれて久しい今日。そんな中で「自分が生まれたむつ市に戻って働きたい」あるいは、むつ市に将来を見だし「むつ市で働いてみたい」と思っている若者たちがいます。元気にぎわいのあるまちになるために、そして、将来を担う若者がたくさんいるまちになるために、私たちができることは一。



- 1 研修医が住まいとする臨床研修棟。たまには実家にも帰るようにしている久保田さん。
- 2 一日の生活スタイルから休日の過ごし方まで、楽しく答えてくださいました。
- 3 ここが毎日遅くまで勉強をしている医局のデスク。

床研修棟に住みながら医師としての知識と経験を重ねています。
毎日やりがいのある仕事に打ち込んでいる
研修医は、どんな毎日を過ごしているのでしょうか。
「朝6時半には起床して、7時半ころ病院へ向かいますね。今は外科に配属になっていて、午前中は病棟に入院している患者さんの回診などの業務。午後は手術や検査の現場に立ち会います。仕事は

夜7時くらいまでですね。その後自分で勉強などして帰るので、夜遅い日もけっこう続きますよ。まだまだ経験が浅いですが、今は毎日やりがいの連続で充実しています。
休日は、好きなことをして過ごしています。ドライブして美味しいフレンチのお店とか行ったり。ちょっと背伸びしたような感じですけどね。良いものを食べて、リフレッシュになればと。」



むつ市新町生まれ、田名部中学校から県立青森高等学校へ。弘前大学医学部を卒業し現在はむつ総合病院にて研修医として勤務する久保田さん。
将来は外科医師として、むつ下北の医療に携わりたいと願う久保田さんに迫ります。

むつ総合病院研修医
久保田隼介さん

！ そんな若者を育てる第一歩 次代を担うプラチナ人材育成プロジェクト (未来人材育成奨学金プロジェクト)

人口10万人当たりの医師数が全国平均を大きく下回る深刻な医師不足の状態にあるむつ・下北地域。これを改善するためには、地元から医師を目指す人材を育成することが地域医療の確保に非常に効果的と考え、市内の高等学校から医学部へ進学した若者に対して助成金を交付するプロジェクトを創設しています。地域への愛着や貢献意欲といった思いを持った若者が医師を目指し、卒業後は地域の医療に貢献するというサイクルを作ること、地元へ定着する医師の増加が期待されます。



私がむつで働く理由
「今まさに現場でしごかれている身ですが、知らないまちではなく、地元だから、両親がそばにいるから頑張れる部分も多いです。私たちむつ市民は、たまたまむつに生まれた人間ですが、でも、ここに生まれた「意味」としては、たまたまむつに生まれたわけでは

理由です。」
医療に携わる「だった。だから、それが私がむつで働く理由です。」



昨年外科手術体験セミナー in むつにスタッフとして参加。市内の中高生へ、外科手術の現場のリアリティーを伝えた。

多忙を極める医師のスケジュールを何とか1時間だけ調整していただき、インタビューに答えていただいた研修医の久保田隼介さん(26)。むつ市出身の彼は「申し訳ないんですが、良い答えは何も準備できてないんですよ」と、はにかみながら我々を医局へ迎えてくれました。
むつ市で働いていることを喜んでいてくれたらうれしい
医学部卒業後、研修医として勤務する病院にむつ総合病院を希望し今年で2年目。将来的にむつで医療に携わりたいという思いがむつ総合病院を希望する理由でした。
「実家のあるところで医師として仕事ができていることを喜んでいてくれたら嬉しいですね。」
自分が地元に戻ってくることで両親が喜んでくれることを願う彼は、現在病院のすぐそばにある臨



病院では深夜まで勉強することも。「医の道は一生勉強」と久保田さん。